

4 令和5年度 川北町立川北小学校 学校評価計画

	評価項目(◎重点)	具体的取り組み	評価指標	達成度判断基準	備考
1	①組織的な学校運営 <学力向上ロードマップに基づく組織的実践> ・主任を中心とした各組織がPDCAサイクルを機能させ、連携し取り組める組織の構築 ・目標達成に向けた教育活動 ◎定期的な検証、改善の確実な実施(PDCA)、	・四部会と運営会議と職員会議を密接に連携させた、組織的主体的な取組を行う。定期的な検証を行うために、昨年度の反省を生かした目標とする姿の具体を職員会議の議案に明記し、全職員で共有するとともに、実施後の姿で検証を行っていく。	【努力指標】 学力向上ロードマップに基づき、全職員が学校経営方針の具現化に向け、組織的主体的に学校運営に携わって取組の改善を進めている。	学力向上ロードマップに基づいて組織的主体的に分掌業務に取り組み、具体的な改善を進めている教師の割合が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	主担当:教頭 評価方法:教職員アンケート 実施時期:7月、12月
2	<「チーム学校川北」を実現する学校風土の形成と人材育成> ・協働して学び続ける職員集団。 ◎人材育成による業務改善の推進。 ・高い危機管理意識による安全安心な学校づくり。	業務改善の推進のため、月一回のOJTの活用及び運営会議の場で計画的に人材育成を行う。また、業務内容を見える化し、見通しをもって業務を進めることで、効率化を図る。	【努力指標】 OJTや運営会議を計画的に進め、業務内容を見える化し、教師力を向上させることで業務改善に繋がっている。	自分の目標とする教師像に近づくため教師力を向上させ、業務改善に繋がった教師の割合が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	主担当:教頭 評価方法:教職員アンケート 実施時期:7月、12月
3	②考える子 <進んで学ぶ児童の育成> ・子どもが目標達成する授業。 ・子どもが主役の授業。 ◎主体的・対話的で深い学びを通じた目標達成につながる授業改善の推進。 ・組織的なGIGAスクール構想の推進	児童が主体的に学びに向かい、自分の考えを伝え合い、深め合うことのできる授業改善のため、校内研修や研究授業等で共通理解や共通実践を積み重ねる。	【努力指標】 教師はゴールの姿を明確に持ち、「主体的に取り組むようになる課題づくり」「つながりを意識した対話の充実」を柱に授業設計の工夫をしている。	児童が主体的に取り組むようになる課題づくり、対話し深め合う授業づくりに取り組んでいる教師の割合 A:85%以上 B:80%以上 C:75%以上 D:75%未満 ※児童アンケートで「自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いた」して、考えを深め合ったと答えている児童の割合	主担当:研究主任 評価方法:教職員アンケート 児童アンケート 実施時期:7月、12月
4	③確かな学力を育成 <基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得> ◎本時の目標で貫かれた授業実践。 ・パワーアップタイムの有効活用。 ・家庭と連携した学習習慣の確立と質と量の充実。	各単元の学習内容を確実に身につけさせるために、本時の目標で貫かれた授業を実践する。	【成果指標】 児童は各単元の学習内容が定着している。	算数の単元末テストが80点以上の児童の割合が、クラスの80%を超えるクラスの割合(全8クラス) A:6クラス B:5クラス C:4クラス D:4クラス未満	主担当:教務主任・学力担当 評価方法:得点集計 実施時期:7月、12月
5	④豊かな心の育成 <自己有用感の高揚と居心地の良い学級づくり> ◎生徒指導の4つの視点を生かした積極的な生徒指導。 ・明るいあいさつや思いやりのある言葉遣い。	改訂された生徒指導提要のポイントを示し、共通理解を図る。授業や生活指導に活かし、自己有用感を高め、居心地の良い学級づくりを進める。	【満足度指標】 安心・安全な学校生活を送り、学校生活が楽しいと感じている。学級に児童の居場所があり、一人一人が学校生活に満足している。	児童アンケートの「学校は楽しい」「先生はできるようになったことやがんばったことを認めてくれる」児童の割合 A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	主担当:生徒指導主事 評価方法:児童アンケート 実施時期:7月、12月
6	<道徳授業を中心に教育活動全般を通して道徳性を育成> ◎教育活動全般にわたっての重点目標(3つの心)の意識化。 ・読書活動の推進(習慣・質と量の向上)	児童の道徳的心情(3つの心)を養うために、道徳の授業と学校行事を関連づけて指導する。	【成果指標】 児童は授業や学校生活の中で3つの心を伸ばそうとしている。	道徳の重点項目において3つの心を伸ばせた児童の割合 A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満 ※活動のふり返り、3つの心を意識した児童の割合	主担当:道徳教育推進教師 評価方法:道徳アンケート 実施時期:学期に1回
7	⑤健康的な体の育成 <体力・運動能力の向上> ◎スポーツテストによる課題の克服を通して健康な体の育成。 ・目標に向かって、主体的に体力づくりに励む児童の育成	年間を通して体育の時間やアウトメディアの取組を通して、「柔軟体操」を行うことで、柔軟性の向上を図る。	【成果指標】 柔軟性を高める体力作りに主体的に取り組んでいる。	「柔軟の運動に楽しんで取り組んでいる」と回答した児童の割合 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満 2月5月に測定した「長座体前屈」の結果より、12月に測定した結果が2cm以上記録がのびた児童の割合	主担当:保健主事・体育担当 評価方法:児童アンケート 測定結果 12月 実施時期:7月、12月
8	<健康教育の充実> ～望ましい生活習慣の確立～ ・心の健康を重点とした保健指導の推進。 ◎家庭と連携した早寝、早起き、メディアの時間の取組。	生活を見直したり、メディアを使う時間をうまくコントロールしたりする力を養うために、アウトメディアの取組で、自分の決めた目標の達成をめざした取り組みを行う。	【満足度指標】 各取り組み期間で自分の決めたアウトメディアの目標を達成できた児童の割合が80%以上になる	「1日1時間以内」を基本に、各家庭ルールを作成し、かつ守ることができている割合 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満 ※各取組期間に目標を達成した児童の割合	主担当:保健主事・養護教諭 評価方法:アウトメディアの取組み用紙 実施時期:5. 7. 12月
9	⑥信頼される地域との連携 <地域人材の活用によるキャリア教育の充実> ◎各教科、総合的な学習の時間等による積極的なゲストティーチャーの招聘。 ・地域人材を生かしたふるさと教育の推進。	地域のよさを知り、児童が夢や目標をもつキャリア教育を充実させるために、特別活動や各教科で年間2回以上ゲストティーチャーを活用した授業を行う。	【努力指標】 ゲストティーチャーを活用して、夢や希望をもつ授業を行っている。	年間2回以上ゲストティーチャーを活用して、将来の夢や希望をもつ授業を行った学年の割合 A:全学年 B:5学年以上 C:4学年以上 D:4学年未満	主担当:手取川プラン委員 評価方法:実施記録 実施時期:7月、12月
10	<情報の収集と発信の充実> ・学校評価委員会等のご意見による学校改善の推進。 ◎各種たよりや学校ホームページによる教育活動の発信。	学校関係者評価委員の意見を取り入れた改善を積極的に進めるとともに、各種たよりや学校ホームページ等による教育活動の発信を充実させる。	【成果指標】 担任や担当が各種たよりや学校ホームページの積極的な発信により、学校の教育活動について保護者が理解している。	担任が月に2回以上家庭向けに便りや発行したり、担当がホームページを更新したりすることで、「家庭への情報連絡や提供が積極的に行われている」と回答した保護者の割合が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	主担当:教頭 評価方法:保護者アンケート 教職員アンケート 実施時期:7月、12月